

橋の切手目録(1/8) 解説編

2020年10月版

(不定期にデータの追加や更新が行われますので、日付にご注意下さい)

0. まえがき

日本も含め、世界全体で、多くの人が郵便切手(postage stamp)を趣味として収集しています。切手の収集家を、英語では **philatelist** と言います。そして、個人が最小の美術館を手元に構成するような楽しみ方をしています。ここに紹介する**橋の切手**とは、直接、または間接的に添景として、橋の図柄を持つ切手を指します。、それを国別・発行年順に並べて**目録**(何があるかのリスト)に編集したものです。筆者の島田が個人的に収集した切手を元にして、内外の切手**カタログ**(商品としてのリスト)からのコピーを加えて、カラー版の資料集に編集しました。元々の目的は、橋梁工学の参考資料として手元に置くことにあったのですが、パソコン上でカラー画像として扱うことが便利になりましたので、公開用資料に編集しました。画像を多く含む文書のファイル寸法は非常に大きくなります。個人の環境でのファイル送受信や印刷の便を考えて、20ページ前後の7分冊のPDFファイル集合に編集しました。目録本体は第2～7分冊にまとめました。この文書は、切手目録の見方の解説です。

島田静雄

目次

0. まえがき	2.4 切手の種別
1. 切手目録の編集	2.5 人文地理学的に見る
1.1 目録のファイル構成	3. パソコンによる目録作成までの経緯
1.2 目録の編集書式	3.1 私的な事情から
1.3 説明文の凡例(Introduction)	3.2 ドイツのペンフレンドとの交流
2. 郵便事業について	3.3 サムネイルの利用
2.1 国名表記	3.4 デジタル化した画像の実用上の欠点
2.2 地域区分との関わり	
2.3 連邦制国家の場合	

用語索引

(番号は章・節です)

Autobahn 3.2	PDF 0	解像度 3.4	人文地理 2.5	都道府県制 2.2	名神高速道路 3.2
bridge 2.5	philatelist 0	海外領土 2.3	函面 3.4	特殊切手 2.4	3.2
CHM 1.3	resolution 3.4	記念切手 2.4	水文学 2.5	飛び石 2.5	木造アーチ橋 2.5
CSV 1.3	Scott カタログ 1.1	金券 3.3	水路橋 2.5	飛び地 2.3	目録 0
DPI 3.4	thumbnail 3.3	切手商 1.1	石造アーチ橋 2.5	日本郵趣協会 1.1	屋台店 3.3
FDC 2.4	UK 2.2	公用切手 2.4	2.5	ヴァチカン 2.4	郵便事業 2.1
HTML-Help 1.1	viaduct 2.5	工業図面 3.3	占領地 2.2	凡例 1.3	陸橋 2.5
Introduction 1.3	アナログ画像 3.4	航空便 2.4	占領地 2.3	ピクセル 3.4	連合王国 2.2
ISO 1.3	天橋立 2.5	高架橋 2.5	大英帝国 2.3	飛脚 2.1	連邦制 2.3
JPG 3.4	駅馬車 2.1	高速道路 2.5	段組 1.1	普通切手 2.4	連邦制度 2.2
MC 2.4	沖縄 2.2	国名表記 2.1	地域区分 2.2	マイクロフィルム 3.2	
Michel カタログ 1.1	雄橋 2.5	国連切手 2.4	デジタル画像 3.4	マキシマムカード 2.4	
MS-EXCEL 1.3	カタログ 0	サムネイル 1.3	2.5	眼鏡橋 2.5	
MS-WORD 1.1	画素 3.4	初日カバー 2.4	通信省 3.1		
		書式 1.2	鉄道橋 2.5		
		植民地 2.3	天場 2.5		

1. 切手目録の編集

1.1 目録のファイル構成

切手のカタログは、世界の各国は、自国向けに出版されています。日本では、**切手商組合**の編集によるものと、**日本郵趣協会**が編集しているものとの二種があり、A5 版サイズで約 400 ページ、年刊で発売されています。世界全体に範囲を広げた総合カタログとなると、非常に専門的な出版物であって、英米独仏の4ヶ国の出版社が発行しています。切手の分量は多いので、国名または地域名で分冊され、循環的に二年程度の間隔で発行されています。筆者は、アメリカの **Scott カタログ**(レターサイズ)、ドイツの **Michel カタログ**(A5 版)の中古を入手しましたので、これらを参考資料として、橋に関する切手に限定した A4 版の目録をまとめました。世界全体の切手資料をまとめたカタログは、全ページ数が1万ページにもなる大部の印刷物ですが、橋の画像を含む切手に限定すると、1%以下の分量です。切手説明の見出しは短く、必ずしも橋名や場所などが詳しくなく、無いこともありますので、必要最小限の情報を追加した目録をまとめました。個別の橋についての、簡単な説明や工学的なデータは、別に **HTML-Help** の形式で編集してあります。

橋は、生活環境と社会環境とを支える人工的な構造物です。その建設は、自然の地形と気候、とりわけ、水環境に大きく影響されます。ヨーロッパ大陸は、温暖な気候であって、程ほどの降水量がありますので、古くから多くの橋が建設されてきました。地中海は降水量が相対的に低く、その南側のアフリカ側では砂漠地帯に近接していることもあって、橋の数が多くありません。このような人文地理学的な条件を考えに入れて、橋の目録を、下の表のように、ほぼ大陸区別にまとめました。日本は東アジアに属するのですが、最初に扱うとして、独立した**目録2**にまとめました。

ファイル名	地域区分	地域区分内の主要な国名・自治体名	PDF 版 ページ数
橋の切手目録1	(解説編)	(この文書です)	7
橋の切手目録2	日本	(地理的区分は東アジアです)	22
橋の切手目録3	西欧	イギリス本国(UK)、フランス、ドイツ、イタリア、スイス、オーストリア、	20
橋の切手目録4	北・中・南欧	アイルランド、アイスランド、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク、ベネルックス、ポルトガル、スペイン、ジブラルタル、リヒテンシュタイン、アンドラ公国、モナコ、バチカン、マルタ、ギリシャ	17
橋の切手目録5	アフリカ・ 中東	西サハラ、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、エジプト、スーダン、コートジボワール、セネガル、アンゴラ、中央アフリカ、マラウイ、トルコ、シリア、イラク、イラン、アラブ首長国連合、旧ユーゴスラビア連邦、{スロベニア、クロアチア、ボスニアヘルツェゴビナ、セルビア、コソボ、マケドニア}	14
橋の切手目録6	東欧・旧ソ連・ 北アジア	ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、旧ソビエト連邦{ロシア連邦、ウクライナ、ベラルーシ、エストニア、ラトビア、リトアニア、ジョージア、アーツカフ} イラク、イラン、パキスタン、インド、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、フィリピン、	17
橋の切手目録7	北・東・南アジア オセアニア	モンゴル、中華民国(台湾)、中華人民共和国、香港、マカオ、満蒙、大韓民国、朝鮮民主主義共和国、パキスタン、バングラディッシュ、ネパール、ブータン、ミャンマー、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、東ティモール、オーストラリア、ニュージーランド、西サモア、	17
橋の切手目録8	北米・中米・南米 その他(UN)	カナダ、アメリカ合衆国、パナマ、ドミニカ、グアテマラ、ウルグアイ、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、コロンビア、ペルー、コロンビア、	8

1.2 目録の書式

切手のカタログでは、切手の額面と共に、**金券**としての平均的な商品価格が記載されています。目録では、特に必要としない場合には省きました。目録の編集は、**MS-WORD** で作業しました。カタログの方の書式は、活字の寸法が小さく、**段組**で編集されています、目録は、今見ている文書のような一段組み編集です。本文のフォントは、MSP ゴシック、10.5 ポイント、切手とほぼ同寸法のサムネイルを横一列に表の形にまとめ、その下に箇条書きで説明文を並べた書式を単位としました。下に一行単位の目録の例を示します。

			
BDE106	BDE107	BDE108	BDE109
<ul style="list-style-type: none"> ● BDE106, 2013.04.04, S2728, M?, Fehmarn Sound Bridge, ● BDE107, 2013.09.05, S2748/9, M?, Heidelberg Castle and Old Bridge ● BDE108, 2014.04.04, S2783, M?, First Long Distance Railway Line in Germany, 175周年 ● BDE109, 2012.08.09, S2686, M?, Mittenward Railroad 			

1.3 説明文の凡例(Introduction)

この目録は、日本での利用を考えた編集です。日本の切手の説明をドイツのペンフレンドに紹介するときに必要な、簡単な英語での説明を付けました。下の表の、Introduction の欄がそうです。海外の切手の紹介は日本語に翻訳するのが丁寧ですが、固有名詞などは Scott または Michel 版からの直接引用もしています。元の言語が例えばアラビア語であるとき、英語またはカタカタに翻訳しますが、Scott カタログの英文表記を主に参照しました。都市名なども、原語ではなく英語表記を使うようにしました。例えば、イタリアの Roma, Firenze, Venezia は、Rome, Florence, Venice です。日本でも良く知られた地名や都市名は、原語からのカタカナ読みと、英語からのカタカタ読みとが混在することがあります。

箇条書きにした説明文は、**MS-EXCEL** で原稿を別に編修したものを原簿としていて、それを **CSV** 形式に落としたテキスト原稿を挿入しました。箇条書きリストの項目区切りは、半角のコンマになっています。一列の文字数を抑えるため、EXCEL の列項目も選別してあります。ドイツ語、フランス語、スペイン語などではアクセント記号付きの特殊ラテン文字があります。これらは日本語用のパソコンのキーボードと MS-WORD では直接利用ができませんので、違った表記法を使うこともしています。例えば、ドイツ語のウムラウトつき a, o, u は、ae, oe, ue と表記する、などです。

元の切手は高精度で印刷されています。MS-WORD での目録編集で、切手の画像をデジタルスキャナで取り込むとき、300 DPI の解像度を選びました。これは、パソコンのモニタ上では、そのままでは実寸の約3倍の大きさで鑑賞できます。目録に編集するときは、ほぼ元の切手大(**サムネイル**; thumbnail、親指の爪の意)になるように縮小表示にします。この作業では、MS-WORD ファイル寸法が巨大化しますので、公開用資料は PDF 版に変換したファイルを使います。そうすると、ファイル寸法を約 1/10 に圧縮できます。なお、大きめの切手の画像と説明とを楽しむため、**HTML-Help** の形式の **CHM** ファイルも別資料として編集してあります。

凡 例	Introduction	解 説
画像ID	Illustration Code	“B”+“ISO nation code”+“number”
発行年(日本の年号)	Year of issue (Impereal Era)	日本の切手の場合だけ(for Japanese Stamps)
発行年(西暦年・月・日(西暦))	Year.Month.Day (Christian era).	例えば、2012.09.05 ↓ *
Scottカタログ番号	Scott stamp catalogue code	“S”+“number”
Michel カタログ番号	Michel stamp catalogue code	“M”+“number”
切手商組合カタログ番号	(for Japanese Stamps)	
郵趣協会カタログ番号	(for Japanese Stamps)	
切手名(分類、表題)	Name of stamp, Caption	
額面	Denomination	同じ図柄で額面違いがある
橋名(塔などの構造物を含む)	Bridge name	追加情報(Additional information)
都道府県名	Prefecture Name	(for Japanese stamps)
備考(都市名、河川名など)	Remarks (City name etc.)	追加情報(Additional information)

* 切手本体に発行年が小さく印刷されるようになったのは 2000 年頃からです。未だ一般的ではありません。

2. 郵便事業について

2.1 国名表記

人が直接出向いて対面で話をするに代えて、手紙や小さな荷物を別の人が配送し、情報交換をする社会制度は古くからありました。江戸時代の始め、日本では**飛脚**、アメリカでは**駅馬車**の利用が見られました。切手を貼って間接的に配達費用に当てる近代的な郵便事業は、1840年、イギリスに始まりました。郵便事業は、原則として国単位で管理され、世界各国が連携する、国際制度に育ちました。どこで発行されたか、の国名または地域名は、切手そのものの必須印刷項目です。ただし、英国は、切手制度を最初に始めた国であることが尊重されて、国名表記がありません。その代わりに、近年ではエリザベス女王のシルエットが使われています。

2.2 地域区分との関わり

イギリスまたは**英国**の用語表記法は、日本語での通称です。正式名称は、「**グレートブリテン及び北アイルランド連合王国**(United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)」です。長い文字並びですので、**連合王国**、**UK**の略記が用いられています。本国は、地理的には、海で隔たられた、フランスの北にある大きな二つの島(Great Britain,と Ireland)の一つです。以前は、それぞれが王国でした。ところが、カトリックとプロテスタントとの宗教上の信条の違いによる対立が政治問題と深刻に関わって、1922年、北アイルランドの一部がGBに帰属することになり、イギリスの正式名称が上のような長い表記になりました。日本も江戸時代までは大名領地の集合でしたので、連合王国の性格を持っていました。明治維新で**都道府県制度**に移行しましたが、これは欧米風に見れば連邦制度に相当します。**連邦制**は、二つ以上の国(州)が一つの主権の下に結合して結成する国家形態を言います。日本は、一国一言語であること、また信教違いに寛容であること、人種違いによる差別も厳しくないこと、などの理由が幸いして、地域単位が独立国として自立することをしませんでした。**沖縄**は、戦後の一時期、米軍の**占領地**でしたが、アメリカが思っているほどには独立志向が高くなく、日本に復帰することを選びました。世界の切手カタログでは、占領時代の沖縄は、アメリカの特別区の扱いになっていて、英語の見出しは Ryukyu Islands です。

2.3 連邦制国家の場合

国際的に一つの国として扱われる場合であっても、行政上、地域ごとに緩やかな自治権を持つ複数の国・州・県の集合で構成されていることは普通です。日本の47の都道府県がそうです。切手の発行で、州や県名を表記し、その地域だけで投函利用をする切手の発行はしません。また地域固有の事物をデザイン化した切手であっても、日本国内ではどこでも利用を受け付けてくれます。**連邦制**の国家形態では、切手の国名表記法が二種類あります。

第一は、日本と同じように、一つの国名表記で利用できる場合です。連邦制であることを表す形容詞として、国名表記に United, Federal が使われていることが見られます。イギリス本国も、実質的には連合王国です。代表的にはアメリカ合衆国、アラブ首長国連邦があります。共和制国家に移行した国では、特に表記をしないこともあります。連邦制の国家では、地域で構成を解消する独立志向がよく起こり、これが紛争の火種にもなります。実際に、第二次世界大戦後、ソ連・ユーゴスラビア・チェコスロバキアの連邦制は消滅しました。ただし、切手カタログには、元の国名見出しが残されています。同じ地域の切手でも、年代違いで別の見出しになっていることで混乱することがあります。一方、解消ではなく、統合の場合があります。例としては、戦後処理の段階のとき、日本では米軍占領下の沖縄が1972年に本土に復帰したこと。もう一つ、冷戦時代のドイツが東西ドイツに分割されていた地域は、1990年に再統一され、一つの国名を持つ連邦国家になりました。

第二は、独立性の強い自治権を持つ二つ以上の地域の集合で、それぞれが固有の地域名を付けた切手を発行している場合です。戦前、欧米の列強は、世界各地に多くの**海外領土・植民地**を持っていました。イギリスは、際立ってその数が多く、本国・王室直属の領地を含め、その全体を**大英帝国**(British Empire)と呼びました。戦後は大部分が独立国になりました。単独で一国家となるには、国力が足りない場合、聯合形式で外交上の一国家とする例があります。例えば、セントクリストファー・ネイビス(Saint Kitts, Nevis)があります。個別に、地域名を付けた切手だけが地元発送のときに受け付けられます。しかし、事業としては採算がとれませんので、観光客向けのお土産用切手や、切手博に出品する商品として使われています。似た制度ですが、欧米列強は、政治的・軍事的・経済的な思惑から、自国所属の飛び地や占領地を維持していることが見られます。本国から地理的に離れていますので、地域名をつけた切手が発行され、その地域内限定での投函利用がされます。例えばフォークランド諸島はイギリス領ですし、1997年に中国に返還する前の香港もそうでした。世界の切手目録を参照するとき、ISOの国名表記に無い地域名の見出しもあることに注意が必要です。切手の国名表記が時代によって変わることがありますので、切手カタログを参照するとき混乱します。

2.4 切手の種別

郵便事業の経費を賄う企業は、国営から民営に移行することが普通になりました。実務的な使用を目的とする切手を**普通切手**と言います。意匠的に興味を引くような図柄はあまり使われません。発行年代の社会・政治情勢を映すように、王侯・帰属・軍人などの肖像画、名所旧跡の風景画、有名画家のよく知られた作品などが使われます。1920年代から戦後の一時期まで、郵便物の海外輸送に、船便のほか、高速の航空便が利用されるようになって、国内用とは別価格の郵便切手も扱われました。普通切手として使いますが、当時の最先端技術の成果を表すため、風景画と航空機との組み合わせ図柄が、一つの分類となりました。図柄に特徴を持たせる**記念切手**や**特殊切手**の発行は、多くの切手愛好家を掘り起こすことになりました。郵便物に貼る切手は、発行国の郵便局でだけ有効として受け付けられるものですが、世界各国の切手愛好家の収集対象となるような努力もされています。これは、間接的には発行国または発行地域への観光誘致に役立ち、直接的には発行国または地域の外貨獲得の輸出商品になります。世界的規模で作成されている切手のカタログでは、国名だけでなく、地域名の見出しも多く見られます。切手そのものの売り上げだけでなく、種々のサービス業務が見られます。**初日カバー**(FDC; First day Cover もしくは First day of issue)は、郵便切手の発行日当日の消印が押された封筒を言います。記念切手発行のときの限定数郵便物であって、切手収集家のコレクション対象としての郵趣品です。**絵葉書**に仕立てたものは、**マキシマムカード**(MC; Maximum card)と言います。

官公庁が郵便の発送に使う専用の切手を**公用切手**と言います。日本にはありません。国連(united Nations)の業務では**国連切手**を発行しています。一般の人が使用できない特殊な切手ですが、切手収集家の収集対象としての人気があります。また、世界最小の独立国は、イタリアのローマにある**ヴァチカン**です。ここで発行される切手は、ローマ市内で一般の人が購入でき、また有効な切手として投函が受け付けられています。ただし、橋を図柄に持つ切手はないようです。

2.5 人文地理学的に見る

橋は、基本的に、人や車馬の通行の障害になる河川や運河のような水環境に建設される人工の構造物です。したがって、砂漠のような乾燥した地域や、降水量の少ない大陸国家では、橋の建設需要そのものが少なく、結果的に橋の切手種類も少ないのです。一方、人の生活環境・社会環境では、良質の飲用水・用水が必要です。都市環境では遠くから水路を通して供給します。起伏のある地形では、水路を通す橋も建設されます。これらは、英語では**bridge**ではなく、**viaduct**と言います。日本語は**水路橋**ですが、一般的に言うときは**陸橋・高架橋**です。古くは、西暦紀元前のローマ帝国時代に多く建設され、現在でも実用されている構造物もあります。世界遺産としての維持・保存が図られるようになりました。河川や水路の水は、地域の降水量で供給されます。**水文学**的(すいもんがく)に見て適度は水循環がないと、人の生活環境に向きません。日本は、大陸国家に比べると年間約 1500mm、大陸国家の約3倍も多い特異な自然環境の国です。欧米そして中国では、永持ちのする**石造アーチ橋**が多く見られるのに対して、日本では平均して 20 年程度で架け替えが必要となる木橋が多く建設されてきました。石造アーチ構造は中国に学び、その最初は江戸時代の始め、1634 年の長崎の**眼鏡橋**です。しかし、この形式の橋の建設が全国的には広まりませんでした。日本で石造アーチ橋が少なかった理由の一つは、石造であっても、日本では水流が早い洪水で簡単に破壊されることにあります。岩国の**錦帯橋**は**木造アーチ橋**であって 1673 年の創架です。橋梁技術者の間では、世界的に知られています。橋は、社会環境と自然環境とに関係して建設されますので、**人文地理学**的な研究対象として見ることができます。橋の切手を話題に取り上げるときは、工業技術の解説とは異なった知見が発見される面白さがあります。

近代になって、**鉄道橋**が多く建設されてきました。また、戦後は自動車専用の**高速道路**の建設がブームになりました。鉄道そして高速道路も、水路ほどの正確さは必要とはしませんが、勾配変化を低く建設する必要があって、これが高架橋としての新しい景観を構成するようになりました。ただし、実用を優先するあまり、美的な都市景観が考慮されなかったことに、批判がされるようになってきました。

河川や水路は、生活環境・社会環境では交通の障害物ですので、人工的に橋を架けたい希望がありますが、自然の地形で橋として利用できる場合があります。これには二種類あります。一つは自然が作ったアーチ形式です。見かけが洞穴のようになっていることが多く、名所として知られています。日本では広島県帝釈峡の**雄橋**(おんばし、BJP230)、英国では**マン島**の切手(BGB008)が図柄に採用されています。橋とは言えないのですが、日本庭園などに見られる飛び石並びも利用されています。切手の図柄には、イギリスで図柄に採用されています(BGB003)。二つ目は陸続きの地形です。日本では**天橋立**(あまのはしだて)が橋扱いされています。人工的なダム構造で、天場(てんば)が通路になっているときは橋の役目を兼ねますが、ダムの図柄は省きました。パリのエッフェル塔は、エッフェルが橋の技術者であったこともあって「橋を垂直に建てた構造である」と陰口も言われました。したがって、テレビ塔などの特殊構造物も橋に準じた図柄に加えました。

3. パソコンによる目録作成までの経緯

3.1 私的な事情から

筆者の養母方の祖父(板橋岩吉)は、旧逓信省に奉職し、宇都宮市、前橋市、館林市の郵便局長を歴任しました。そのため、幾つかの戦前の切手は、養母が大事に保存していました。戦後しばらくの間は、切手の種類も少なかったのも、特に保存方法にこだわる必要がありませんでした。精細な多色カラーグラビア印刷が採用されるようになったのは 1955 年頃からです。背景に使われる画像も、美的な鑑賞に向く画題が選ばれるようになって、趣味としての切手収集をすることが盛んになってきました。切手の収集家は、日本だけでなく、世界的な広がりを持っています。国ごとに切手商や収集家の協会があって、国内だけでなく世界的にも、定期的に展示即売会が巡回的に各地で開かれています。専門的には、街なかの切手商が発行期限の古い切手を扱っていますが、古銭・骨董などと合わせた店が多くみられます。筆者は、海外旅行のとき、行った先で切手商を探して、橋の切手を探して購入することもしてきました。

3.2 ドイツのペンフレンドとの交流

名神高速道路は、日本最初の自動車専用道路として 1957 年に計画が始まり、部分的な開通を経て 1965 年に全線が開通しました。この設計と工事は、ドイツの Autobahn に多くを学びました。その当時に来日したドイツ人技師の一人が R. Breidenbruch 氏です。橋の切手収集を趣味としています。日本の切手の情報を知りたいとの希望を、2000 年頃、鹿島建設の百島祐新氏(故人)から紹介されたことが、筆者とのペンフレンドとしての交流の始まりです。筆者が個人的に持っている世界の橋の切手の、かなりの部分は、この交流で得たものです。筆者は、幾つかの大学で橋梁工学の教育と研究に携わってきたので、学術的な文献資料だけでなく、美術書・雑誌・新聞、さらには観光案内などで、橋の画像が載っているものを見境無く集めてきました。切手の収集もその一つですが、マニアックな収集活動はしてきませんでした。雑然とした資料の整理・保存については、物理的には、写真、それもマイクロフィルム化して縮小し、全体の保存場所を節約すること、パソコンを利用して書誌情報をデータベース化することを試みてきました。ドイツ人は几帳面な性格がありますので、切手の情報整理の実践法については参考になりました。

3.3 サムネイルの利用

切手は、寸法の小さな商品として、屋台店で扱われることもあります。有名な場所として、パリのセーヌ河沿いに屋台切手商が集まっていることが知られています。未使用・使用済みの切手は、金券として売買の対象物ですので、必然的に切手のカタログが編集されるようになりました。1996 年頃までのカタログは、カラー版の切手もほぼ同寸法の白黒印刷で紹介されていました。これでは、何が描かれているのかが分からない場合が起こります。したがって、収集家は、実物を集め、見易い閲覧と展示とに工夫することを楽しんできました。2010 年以降、パソコンを利用し、カラーのモニタ画面で切手の図柄を鑑賞できるようになったことは、新しい歴史の始まりでした。大小種々の紙の資料を、寸法が限定されたパソコンの画面で鑑賞できるようにする方法として、画像を切手大の縮小画像に作成して目録にする方法が採用されるようになりました。これをサムネイルと言います。このとき、切手収集の整理方法が参考になります。元の画像を精細に鑑賞できるようにする方法として、筆者は、別に絵葉書大の画像に印刷し、これを第二原図として手元に置か、画像ファイルにまとめる方法を探っています。一方、文書資料は、テキスト形式でファイル化することができます。しかし、手書きの工業図面、印刷された文書資料は文字だけでなく画像も含まれますので、広く捉えるとすべて画像として扱う必要があります。

3.4 デジタル化した画像の実用上の欠点

パソコンのモニタ画面の解像度(resolution)は、現在では約 100 DPI(dot per inch)です。サムネイルの寸法は、実用的には1インチ角(25ミリ角)です。ファイル寸法は、ピクセル(画素)数にして 300×300、メモリ上の寸法は、ビット寸法では9万画素(270KB)ですが、JPG形式で保存すると約 4KB に圧縮することができます。これを拡大表示すると、画質が落ちてます。したがって、実物または実景を生目の眼で見るような良質の画像は別に保存しますが、そのファイル寸法は非常に大きくなります。橋の設計図は A1 版のように寸法の大きな画像です。従来は銀塩の 35 マイクロフィルムに撮影して保存していました。こちらをアナログ画像と区別します。これに代えて、デジタル画像に直して保存することが採用されるようになりました。しかし、ファイル寸法を抑える変換が行過ぎると、再生画像の画質が落ちてしまいます。工業図面では寸法数字などが重要なデータですが、これが再現できなくなることが起こりました。実は、筆者が持っていた画像資料の一部はデジタル化して実物の方を廃棄したのですが、再現利用には向かず、結果的に、こちらの資料は全滅しました。

3.5 私的な環境にある橋

日本は、年間降水量が多いことから、住環境では水はけに多くの注意が払われています。普段は穏やかな小さな川が、集中豪雨で突然水嵩が上がって水害を起こすことがあります。それを避けるために高台に住居や道路を建設するのですが、高すぎると井戸を掘って用水を汲み上げることが難しくなります。したがって、住環境は洪水が避けられる微妙な高さの立地が選ばれてきました。日本の古い街道などは、用水路が近くに引かれ、また、排水のための側溝または小さな水路を道路の端に設けるのが標準構造です。道路沿いの住居は、小さな橋でつながるか、側溝には蓋をします。ここに、私的な小さな橋が渡されているのを見ることができます。これは、非常に日本的な景観を構成していて、観光用宿場町としての保存が図られている場所があります。しかし、建物の方に視線が向いても、小水路については注意しないことが多くなりました。そして、自動車時代になって、これらの小水路は舗装で覆われ、暗渠化もされています。私的な渡しは、このほかに、寺社や庭園に象徴的に架けられますが、自治体の管理対象ではないこともあって、統計的な実情が分からないのが実情です。
